令和8年度　河川水質検査結果

◇新潟県が実施した水質検査の速報値

NO	河川名	採取場所	採取日	採取時刻	天候	気温 (℃)	水温 (℃)	pH 6.5～8.5	BOD (mg/L) ～2	SS (mg/L) ～25	DO (mg/L) 7.5～	大腸菌数 (cfu/100mL) ～300
1	佐梨川	小平沢橋上流	4月15日	11:05	晴れ	25.5	11.4	7.2	0.8	4	11.0	
	佐梨川	小平沢橋上流	5月20日	11:26	晴れ	34.0	15.1	7.5	<0.5	<1	10.0	
2	佐梨川	佐梨川橋	4月15日	11:31	晴れ	27.0	12.0	7.2	0.7	7	11.0	2
	佐梨川	佐梨川橋	5月20日	11:49	晴れ	34.0	17.9	7.5	0.7	1	9.9	10
3	破間川	四日町橋	4月15日	11:49	晴れ	26.9	10.1	7.1	1.3	4	12.0	
	破間川	四日町橋	5月20日	12:04	晴れ	32.0	15.9	7.5	0.8	2	10.0	

※　生活環境の保全に関する環境基準（河川　類型：A）

①pH ： 水素イオン濃度　6.5以上8.5以下

（低）酸性、（高）アルカリ性。強い酸性やアルカリ性の水の中では普通の微生物は活動できない。水生植物、植物性プランクトンの光合成により二酸化炭素が消費されるとアルカリ側に傾く。→水生生物育成に影響

②BOD ： 生物化学的酸素要求量　2mg/L以下

水中の有機物が好気性微生物により分解されるときに消費される酸素の量。有機物汚染のおおよその指標。高くなると水中の溶存酸素量(DO)が少なくなる。（有機物：生物由来の物質）→酸素消費に影響

③SS ： 浮遊物質量　25mg/L以下

水中に浮遊又は懸濁している直径2mm以下の粒子状物質。粘土鉱物による微粒子、動植物プランクトンやその死骸、下水、工場排水などに由来する有機物や金属の沈殿物が含まれる。→光合成に影響

④DO ： 溶存酸素量　7.5mg/L以上

水中に溶解している酸素の量。水温、気圧、塩分等にも影響を受ける。→魚介類の生存、悪臭の発生に影響

⑤大腸菌数　300cfu/100ml以下

水中に多く存在している場合、人畜の糞便等でその水が汚染されている可能性がある。大腸菌数に用いる単位はcfu（コロニー形成単位（Colony Forming Unit））／100mlとし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。